

2016年(平成28年)1月21日(木曜日)

1票の重み自覚

選挙管理
出前講座
模擬投票も体験

室蘭・海星校
学院高校

今年夏の参院選から選挙権年齢が18歳以上に引き下げられるのを受け、全道で行われている選挙啓発出前講座が19日、室蘭・海星学院高校(香川謙二校長、233人)で開かれた。生徒らは1票の重みを自覚し、政治への関心を高めていた。

道選挙管理委員会事務局胆振支所、室蘭市選挙管理委員会主催。道選管胆振支所の西岡裕司主査と、市選管事務局の谷澤康夫事務局長が講師となり、選挙制度の概要や開票作業について解説した。

西岡主査は「同じクラス

であっても17歳の生徒は18歳の友人とともに選挙運動はできない。また、チラシを配るなどして金銭を受け取った場合も処罰される可能性がある」などと注意を呼び掛けた。

飲酒・喫煙の解禁年齢を争点に、現行の20歳維持や18歳への引き下げ、22歳への引き上げをそれぞれ主張する候補者3人から1人を選ぶ模擬投票も体験。生徒117人が本物の投票用紙に候補者名を記入し1票を投じていた。

開票作業を体験する生徒たち



引き続き、代表の生徒3人が開票作業にチャレンジ。誤りがないように、投票用紙に書かれた候補者名ごとに仕分けをした。集計した結果は年齢維持を訴えた候補者が63票を集めて当選した。